

全校朝会の話 7月7日（月）

今日は、何の日か分かりますか。七夕です。七夕の話は知っている人も多いと思いますが、少しお話しします。

昔あるところに神様の娘の織姫と若者の彦星がいました。織姫は機織りの仕事をしていて働き者、彦星は牛の世話をしているしっかり者でした。やがて2人は結婚しました。すると、今まで働き者だった2人は急に遊んで暮らすようになり、全く働かなくなっていました。怒った神様は2人の間に天の川を作って離してしまいました。悲しみにくれた2人は泣き続けました。それを見た神様は、前のように真面目に働いたら1年に一度だけ2人を会わせてくれると約束しました。それから2人は心を入れかえて、一生懸命働くようになったのです。そして2人は年に一度だけ天の川を渡って会うことが許されるようになり、その日が七夕とされるようになりました。琴座のベガ、わし座のアルタイルが7月7日に天の川を挟んで最も輝いていることから、この七夕の話が生まれました。

そして、人々は2人のように願いがごとが叶いますようにと短冊に願い事を書いて、笹や竹に飾るようになりました。1年生が短冊に願いを書いて、笹に飾りましたね。その笹や竹は昔から不思議な力があると言われてきました。神聖な植物ゆえに、そこに神を宿すことができるとも言われ、土地によっては、祭りの後、笹や竹を川や海に流す風習に、笹や竹に悪いことをもっていったらという意味があります。

七夕の夜、雨が降ると2人は会えないという地域もありますが、雨は織姫のうれし涙なので、2人は会えるという地域もあります。地域によって言い伝えは違いますが、ぜひ、今日の夜、夜空を見上げてみてください。